

山行報告書

日時	2025年 8月 3日(日)		天候	晴
山名	犬が岳恐淵谷沢登			
CL	aki-taka	参加者	carnpo38,ねばだずひらい	
(コース)	春日モール駐車場7:00→犬ヶ岳登山口駐車場:入渓10:00→脱渓13:30→駐車場15:00→春日モール駐車場17:00:解散			
(コメント)	(ねばだずひらい) 2度目の沢登は恐淵谷。地殻変動の造形美が生んだゴルジュは、写真では伝わらない荘厳さを放つ。連日の晴天で岩肌には苔が張り付き、足裏のラバーソールはバナナの皮状態。あっ、そいえばビートルズのアルバムにラバーソールってのがありましたね。綴りが違うのか。とにかくそのラバーソールが滑る。踏ん張れない。でも、進む。挑戦心と恐怖心が綱引きを始める。沢初心者にとって、薬指と中指だけがかるうじて掛かるホールドは、闇バイトで約束された報酬のようなもの。「う～ん、めちゃめちゃあやしい」。でも、褒め上手の先輩方から気前のいい賛辞を頂き、調子に乗りなおサルは、ワシワシ水流を遡る。ワンミスが大ケガに直結すると理解しつつも、「たぶん、いけるっしょ!」という根拠薄弱な慢心が時折チラリと顔を出す。それを諫める。「そんな、うまい話はない」。苔むした岩肌。不安定な足場。頼りないホールド。体幹と胆力だけが頼りの瞬間。でも、不思議なことに、このスリルが、やがて快感に変わる。滝登攀後にジワジワと訪れる安堵。ふう～ッと息を吹き見上げると、壮麗な自然の美。優しい光と色と音の抱擁。ふと、普段関わるティーン・エイジャーの姿が脳裏に浮かぶ。彼らがもし、スマホを置き、リアルな世界のざらつきに触れたなら、バーチャルでは味わえない命の実感が、そこにはある。自然は厳しく、そして寛大だ。昔、劇作家の寺山修司が何かいい事を言っていた気がする。私は、連中に言いたい。つべこべ言わず、「スマホ叩き割って、沢に来い!」。 (ナン) 入渓(標高500mか)して30秒ほど、膝から下の冷んやり感に体が慣れると沢登モードがウィッチオン。頭の中で「ゆけ!ゆけ!川口浩!!」の音楽が流れ始める♪2年ぶりの沢は、大分と福岡の県境・犬ヶ岳山域の岩岳川。通称・恐ヶ淵谷(名前負けしている気がするが...)。小滝、釜付、スラブ滝と違うタイプが次々と現れる。そのたびに攻略ルートを探し正面から挑むのが楽しい。腕、胸の筋肉がひ弱な私は、滝口に登り上がる前に力尽きて水中に何度もドボン!(落ちて安全な水面を選んで)これもまた楽しい。私が敗退したところを、沢登経験3回目のHさんが軽々超えていく。こりやかなわんと喝采をおくりながら、己の鍛え方不足を反省。ゴルジュ帯を過ぎ、高さ15mほどの大滝を右岸から巻くとゲームは終了。標高800m辺りから土の斜面を左手に上がり、見つけた登山道を下って下山した。何が起きるか分からない沢登は、高揚しながらも緊張の糸は、ずっと張ったまま。それでも、半世紀近いキャリアを持つリーダーのどっしりした存在感がお守りになり、思い切り楽しむことができた。リーダー、ありがとうございました。犬が岳登山口からすぐの「求菩提資料館」(無料)は、修験道関連の2000点の展示が並び、山伏の生活がイメージでき必見かと思います。 (aki-taka) 数年前に恐ヶ淵谷に来たことがあるとはいえ、かなり緊張感をもって臨みました。今回、参加されたお二人が、沢を遡るごとに、積極的に障害となるゴルジュ帯等を楽しんで、クリアしていく姿を後方から見ていると、今回の沢登を計画して良かったと思うと同時に、一緒にこの時間を楽しんでいました。また、一緒にいきましょね。			
費用概算	(ガソリン代及び運転手当含む)		1人2,700円	